



▶平成31年1月4日に開庁した石岡市役所本庁舎は以下の4つのコンセプトで建てられました。

4つのコンセプト

- ・暮らしの安全安心を支える庁舎
- ・市民に開かれ、親しみやすい庁舎
- ・石岡らしさを表現する庁舎
- ・環境にやさしく、経済的な庁舎

平成30年度石岡市決算報告

岡財政課 TEL 23・7293

石岡市のお財布事情 徹底公開

自 自治体の財政の健全具合をチェックする4つの指標の総称を健全化判断比率といいます。この比率の平成30年度の算定結果は「健全段階」でした。

健全だという理由

普通会計の赤字額を示す「実質赤字比率」と特別会計を合わせた全会計の赤字額を示す「連結実質赤字比率」は、下表の通り、どちらもマイナスを示しています。

29年度に引き続き、赤字ではないため健全な状態であるといえます。

とはいえ、厳しい借金返済率

平均的な年間収入に対する借金返済額の割合を示す実質公債費比率は8.7%（下表参照）でした。29年度の9.4%に比べると、改善されています。しかし今後、上菅トンネルやごみ処理施設の建設事業などで公債費が増加

していくことが予想され、人件費や扶助費など継続的に支出する経費も91.6%という高い割合を占めているため楽観視できません。

将来世代が負担する借金は

長期にわたり使用する施設の整備費用は、世代間の費用負担の不平等をなくし、次世代にも負担してもらうように地方債を借りながら事業を行っていきます。将来負担比率とは「市が将来負担することが見込まれる借り入れなどの総額」を「平均的な年間収入」で割り返した数値で、高いほど財政が圧迫されているということとを意味します。

30年度は38・4%と、29年度と比べて6.8%増加しました。理由は、新庁舎が完成したことに伴い、地方債の現在高が増加したこと、庁舎整備に必要な財源として積み立てていた基金が減少したためです。

■ 財政の健全化を判断する4つの指標（＝健全化判断比率）

早期健全化基準は、地方債の借り入れや制限や国から予算変更などの勧告を受けるレッドゾーン手前のイエローゾーンを指します。

指標	内容	結果	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし (マイナス 5.86%)	12.59%
連結実質赤字比率	一般会計のほか、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の割合	赤字なし (マイナス 10.12%)	17.59%
実質公債費比率	市の平均的な年間収入に対する借金返済額の割合	8.7%	25.0%
将来負担比率	市の平均的な年間収入に対する将来負担が見込まれる負債（借金）の割合	38.4%	350%